

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～円高と国内のデフレとの関係、外需が雇用に与えた影響について分析します。

2009/10/28 「内需低迷を深刻化させるデフレ下の円高 ～内需再生には実力以上の円高の修正が望ましい～」

2009/10/16 「アジア向け輸出が支える日本の雇用 ～内需の活性化のみでは補えない輸出の雇用創出力～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～世界の金融市場動向の読み方を毎週お伝えします。

2009/11/16 「Market Watching Weekly Market Report」(毎週月曜日配信)

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～新政権による政策のあり方と財政負担などについて分析しています。

2009/10/23 「鳩山政権と財政再建 ～赤字国債観測で注目される債務管理目標～」

2009/10/14 「『二番底』懸念の考え方 ～腰折れしなくとも成長政策は必要～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～世界各国の景気底入れ後の経済の動きを分析します。

2009/10/26 「ユーロ圏 水準は依然低いものの景気の回復基調持続 ～緩やかなペースでの回復が長期化する可能性～」

2009/10/23 「中国経済事情：『強固』な回復の一方、政策の舵取りは困難が続く」

2009/10/22 「ブラジル経済事情：景気が底離れする中、五輪招致は追い風」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

二、三年前、ロンドンの地下鉄初乗り料金を円換算すると 1000 円にもなることが話題になった。IC 乗車券を使うと大幅な割引があるのだが、それはともかく当時「実質実効為替レート」を算出すると、円は 1985 年のプラザ合意以来の安い水準にあった。この「実質」とは日本と他国との物価上昇率の差を加味して為替水準を比べるという意味。「実効」とは円ドルなど一対一ではなく、各国の通貨を日本との貿易量の比で加重平均するという意味だ。例外的に国内物価が下落基調にあった日本の円レートは、この基準で割安だと評価された。G7 では「円安是正」論が、国内でも経済のためには円高が望ましいという声があがった。

当時欧米は好景気で物価も賃金も資産価格も堅調だった。しかし、その直後に発生した金融危機で、資金はドルそして円へと還流し、結果的に急激な円高を招いた。今 1 ポンドは 150 円前後。当時より約 100 円、6 割を超える大幅な円高ポンド安だ。先の地下鉄料金は 600 円まで下がった計算になる。円が評価されたことを喜ぶにしても、日本経済はこのとおり、世界需要の減退と併せて円高にも大変苦しんでいる。

かつての「円割安説」がしっくりこないのは、デフレによる物価下落を通貨の実力に加味するやり方で日本経済を評価しようとしたからであろう。実は実質実効為替レートが暗示していたのは、バブル景気に沸く英国と、需要不足で物価や所得が低迷を続ける日本との異常なコントラストだったのでなかったか。上記 10 月 28 日付 永濱主席エコノミスト「内需低迷を深刻化させるデフレ下の円高」を参照されたい。(H. U)